

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果  
作成日

平成23年4月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770801195		
法人名	株式会社 オーナーズ		
事業所名	グループホームジョイフルしらさぎ		
サービス種類	グループホームジョイフルしらさぎ		
所在地	大阪市東住吉区今川6-2-23		
自己評価作成日	平成23年3月7日	評価結果市町村受理日	平成23年4月28日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ケア・ウィル
所在地	吹田市千里丘下20-16
訪問調査日	平成23年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設は、開設8年目を今年で迎えようとしています。市内では珍しく大規模な施設となっており、御入居者様はゆったりとしたスペースで個々の時間をお過ごしになられています。 各居室では使い慣れた家具や寝具でおくつろぎいただくことが出来ます。共有スペースでもソファでくつろぐ事が出来、顔なじみの御入居者様同士またスタッフと過ごすことが出来ます。 スタッフも離職率が大変低く、5年以上の勤務者が中心でお世話させて頂いています。なれ合いでお世話させていただくのではなく、専門性を生かし日々研修や話し合いで御入居者様の安心した生活が送れるよう支援させて頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>鉄筋5階建の1階、2階がホームであり、3階から上はマンションとなっているが、出入り口は別になっている。近隣に公園があり、散歩に行きやすい距離にあり、おにぎりを持って出かけることもある。ホームは2フロアとも共有スペースにゆとりがあり、玄関やリビングには入居者が長年作り上げてきた作品が多くあり、懐かしい家具なども配置され、温かみを感じることが出来る。長く勤務を継続している職員が多いため、人間関係が構築され、入居者一人ひとりに合ったケアについて話し合うことが出来る。ホームの暮らしをより良く続けていただけるように、介護の面でも様々な工夫がされている。職員が考えた取組や要望についても迅速に対応が行われるため、職員が現状に甘んじる事なく工夫し、また、経営者側への信頼感も強く持っている。その事がケアの質の向上に繋がり、入居者の生活が安定している。地域のグループホーム連絡会への参加も行われており、サービスのさらなる向上の一助となっている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「普通に・ゆっくり・一緒に・楽しく」を運営目標に掲げ、地域密着型サービスの実践を図っている	理念を目に付くところに掲示し、職員は常に意識しながら業務に従事している。また、職員は日々入所者の個性を尊重し、落ち着いた環境の中で生活出来るよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、外出、散歩の機会を設けている。	町内会にも入会する等、地域との関わりを大切にしながら、ホームに対する理解を地域住民に深めていただけるよう努めている。地域の行事や祭などに参加し、ボランティアの来訪もある。毎日買い物に出かけ、散歩時に知り合った友人に来てもらえる等日常的な交流もある。	今後も、認知症に対する理解を深めてもらえるような継続的な取り組みについて期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出来る限り家族、地域の人々に係っていただき、交流を持ち理解していただくよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夏祭りやクリスマス会などの行事を考え、日常的にも地域の方々の交流を考え散歩・買い物などの支援を毎日行っている。	2か月に1回、地域住民代表、家族、ボランティア、地域包括支援センター職員等が、参加して運営推進会議を開催している。会議内ではホームの現状などを話し合い、アドバイスを受け、サービス向上改善に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる	出来る限り、地域の地蔵盆や夏祭りなどには参加している。	地域の行事に積極的に参加し、ボランティアの協力も得られている。グループホーム連絡会への参加により、情報交換やアドバイスの交流を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	職員全体が理解できるよう話し合い、身体拘束は行っていない。	身体拘束をしないケアを心がけ、不穏時には全職員が見守りながら、安全に配慮したケアに取り組んでいる。玄関は開錠しているが、各ユニットの入り口は安全面を考慮して現在は施錠している。	施錠を常態化せず、職員間の連携や見守りのもと、安全で自由な暮らしが出来るような工夫について、継続的に話し合い、検討する事を期待したい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	細心の注意を払い、職員にも、日頃より会議等で話し合い、虐待防止について、意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ、地域包括支援センターや家族様と協議を行っている。 又、実際に利用者にも支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時及び重要事項説明書全文を読み上げた上で、疑問点や個々の生活面での不安点などについて、返答・理解・納得された上で入居契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載し契約時には、必ず家族及び関係者に伝え、玄関先に意見箱を設置し日頃より、家族の意見を取り入れるように心がけている。	家族会はないが、行事の参加時に家族との意見交換や交流が行われている。また、ホーム便りを毎月発行して入居者の様子を伝え、来訪時には声かけをし、コミュニケーションを図っている。意見箱も設置して活用している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々、個々の意見や提案に傾聴し又、毎月職員会議を行っている。代表者も参加する機会が多く、協議の上、意見や提案が反映できるようにしている。	全職員参加の会議を毎月行い、意見を積極的に聞き出して改善に向けて検討する等、サービスの向上につなげている。定職率も高く、職員は生き生きと働いており、家族に対するアンケートでも高い評価を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	春には花見、夏にはバーベキュー、冬にはクリスマス会をスタッフの為にしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのため、費用・交通費等は法人負担にて、さまざまな研修への参加を促している。施設内においても、インターネットによる資料なども活用しながら研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	東住吉区内のグループホーム連絡会にて、毎月施設の空き情報や職員の意見交換の場に参加している。又大阪市グループホームネットワークにも加入して交流会や研修会に職員が順次参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの訴えはじっくり傾聴し困っていることや不安なことを排除することで、安心な生活が送れるように努めている。特定の者が傾聴するのではなくさまざまな意見を取り入れ会議などで話し合いを重ねる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話し合いの場を多く持ち、困った事不安な事・希望などをよく傾聴し、施設独自の○○さんってどんな人シートを作り、初期の信頼関係に役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族様・関係者様とよく話し合い、ご本人様に合ったサービスが受けられるよう他施設・他サービスの説明も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なじみの関係を作ることにより、時には家族、時には友人・知人となり、日々喜怒哀楽を共にしご本人から学ぶことで、私たちが支えられている気がします。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様のご協力無しでは成り立たず日頃の様子などは来訪時や瓦版などを通して伝え、必要に応じて、ご家族様を巻き込んだ介護が出来るよう日々努力しています。		
20	8	○馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と相談の上、年賀状や手紙など、ご本人様の希望に添える支援を心がけ、ご近所のお友達に会いに行くなどの支援も行っている。	馴染みの美容室へ出かけたり、近くのスーパーに毎日買い物に行く等、外出の機会を多く持ち、地域とのかかわりが継続的に保たれている。友人や知人との行き来も自由に出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食堂の座る位置などを机の配置換えなどにより、さりげない関係を保てるよう日々努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者においても、継続的に面会を希望し、ご家族様に理解を得ている。時折、家族様が訪れてくれる場合も柔軟に対応が出来る。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、入居者が発した言葉などを記録し、出来る限り本人の希望・意向を把握し、ご本人・家族と検討している。	日々の生活の中で、行動や表情から入居者の思いや意向をくみ取り、入居者への関わり方等の情報を共有し、入居者にとって一番良い方向を職員間で話し合い、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込み時に居宅サービス担当ケアマネ等より情報を得、契約時にご家族様から聞き取り、以後については、本人・ご家族・関係者から普段の会話の中より、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人ケースに記録し、毎日の申し送りにて現状把握に努めカンファレンスで総合的な把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の意見を尊重し、カンファレンスや会議にて話し合いを重ね、本人本位の介護計画作成・見直しに努めている。	毎日の申し送りをきっちりと行ってその日のケアを確認し、ケアマネジャーと連絡を密にしてカンファレンスやモニタリングを行っている。また、状態の変化に応じて見直しを行い、関係者への連絡や確認、家族への同意を得て、現状に即したケア計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに日々の記録・本人様の様子・発言内容・水分・排泄など細かく記載し朝・夕の申し送りにて、情報を共有し、実践や介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の個人ケースに記録し、毎日の申し送りにて現状把握に努めカンファレンスで総合的な把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通し、地域の方からの支援・ボランティアさんの協力を得ることは出来てきている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族様の同意の上、週1回の往診と週2回の訪問看護、週に1回の歯科検診にて体調管理し、必要に応じた医療機関の受診が出来るよう支援している。	体調の変化に応じて、必要な受診が家族の了解を得て行われている。月2回の医師の往診、週2回の訪問看護、週1回の歯科訪問等、定期的な体調管理でも十分連携が取れている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	顔なじみの看護師さんの対応に、本人・家族・職員も気軽に相談でき、また日常の健康管理にも役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	顔なじみの看護師さんが入院時も病棟を回って頂く事が出来訪問時に様子等を知らせてくれる。また、面会等にも行き情報を得るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に確認し状態によって家族と密に連絡を取るよう心がけている。	入退院による環境の変化に対応し、看護師のいないホームでも安心して生活を継続出来るよう、また、重度化した入居者にも対応できるよう介護の工夫を行っている。ホームが対応しうる最適なケアについて家族とも話し合いを行っている。	本人や家族の意向を確認し、医療や職員連携の面で安心して納得した最期を迎えられるよう、職員に対しても看取りに関する理解と意欲の支援が行われるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練及び救命救急訓練を受けており会議や研修にて確認するよう心がけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て消防訓練・避難方法等の指導を受け、地域の方々に協力をお願いし、会議等で確認しあっている。	年2回、避難訓練が実施されている。地域の商店や近隣在住の職員を含めて、地域住民と一緒に訓練が行われ、消防署の協力も得ている。夜間を想定した訓練も行い、1週間分の日用雑貨や食料等の備蓄が確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけている。	個別に援助を行う時も、本人の気持ちを大切にケアを心がけている。なるべく自分で判断が出来るように、行動の流れが自然な状態で声かけを行っている。職員は守秘義務について十分理解して取り扱っている。	入居者本人の意思を尊重した形での排泄のケアが行われているので、常態化している排泄ケアに関して、入居者のより自立した尊厳ある意向を継続して引き出すように努めることを期待したい。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな決まりはあるが、個人の気持ちを尊重した介護を心がけている。	基本的な一日の流れはあるが、時間を区切って管理するような事はなく、体調や本人の気持ちを尊重して、個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	心がけている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の献立を掲示し、お誕生日会や行事には季節にあった食事や配膳を心がけ、利用者様のリクエストに応じた献立も対応している。外食・お弁当なども対応している。利用者様の参加も積極的に行っている。	入居者には食材の下ごしらえ等、出来る事は職員と共に行って、職員と同じテーブルで食事をしてもらっている。また、お誕生日は一人ひとり行い、食べたい物を聞いて作っている。ミキサー食の人にも綺麗に盛り付けたり、ランチョンマットを使うなど、楽しめる工夫を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じての量を把握し、その方にあった支援を心がけている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に一回 専門医によるケアを行い、食後の口腔ケア個別対応している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別に排泄パターンを把握し必要に応じた対応を心がけている。	随時排泄の見直しを行い、入居者本人に合った誘導方法や紙おむつ、パットを使用出来るように話し合っている。個別に排泄チェックを行い、失敗のある人にも排泄パターンを理解することで、トイレでの排泄が出来るよう支援を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	専門医からの指示を仰ぎ個別の水分摂取や排泄パターンを把握する事を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の時間を決めていますが個々の希望に沿うように心がけている。	入浴の方法や時間を職員が一方的に決めず、その日の入居者の希望を確認して入浴支援を行っている。入浴に時間のかかる方はゆっくり入れるように順番を工夫したり、季節を感じる事が出来るような支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なじみの寝具を使用していただき可能な限り個人の好きな時間に臥床していただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに服薬内容の説明書を添付し、職員は薬の目的や副作用・用法・用量を正しく理解するよう確認している。又、症状の変化にも対応できるよう医師の指導を受け、支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に応じたレクリエーション(歌・編み物・読書など)や散歩等を提供し、楽しみや気晴らしを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年に数回、 外食や長居公園・動物園などに出かけ、日々、体調・気分に応じて注意しながら散歩・買い物への外出、美容院・理髪店への外出支援を行っている。	一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて、喫茶店や地域で老人に開放される銭湯等を職員が付き添って利用している。また、希望があれば寒い時期でも近隣の公園に散歩に出かける等、頻繁に外出の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に対応している。 必要時には施設の立替にて、支払いいただくこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	個別に対応している。 必要時には施設の立替にて、支払いいただくこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員お手製の暖簾や利用者と季節に合った掲示物や塗り絵などを作成している。浴室やトイレなどその場所にあった暖簾・カーテンを設置している。しかし、音に関しては、十分な配慮が出来ていない。	入居者や職員の手作りの物を掲示し、季節感に配慮している。また、長年作り上げてきた作品や、懐かしく感じられる古い家具等を置き、暖かい生活感を演出している。	共用空間での音の配慮について課題を感じているように、今後も様々な課題を職員間で共有し、継続して検討することを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子テーブルを設置し、個々居心地が良い場所が出来よう工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みのある物を持って来て頂き居室に置いて頂く事によって安心して生活して頂けている。	本人の馴染みのあるものを持ち込んでもらっており、本人の好みを尊重しているため、飾り付けが嫌いな入居者と好きな入居者では居室の印象が違っている。本人にとっての居心地良い環境を整えることを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の構造上、完全バリアフリーではないが、個々にあった身体機能を活かした生活が送れ手すりやすべり止めを設置している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>V アウトカム項目</b>						
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○		①ほぼ全ての利用者の	
					②利用者の3分の2くらいの	
					③利用者の3分の1くらいの	
					④ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○		①毎日ある	
					②数日に1回程度ある	
					③たまにある	
					④ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○		①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の3分の2くらいが	
					③利用者の3分の1くらいが	
					④ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○		①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の3分の2くらいが	
					③利用者の3分の1くらいが	
					④ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○		①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の3分の2くらいが	
					③利用者の3分の1くらいが	
					④ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○		①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の3分の2くらいが	
					③利用者の3分の1くらいが	
					④ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○		①ほぼ全ての利用者が	
					②利用者の3分の2くらいが	
					③利用者の3分の1くらいが	
					④ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○		①ほぼ全ての家族と	
					②家族の3分の2くらいと	
					③家族の3分の1くらいと	
					④ほとんどできていない	
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○		①ほぼ毎日のように	
					②数日に1回程度	
					③たまに	
					④ほとんどいない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くない		
66		職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の3分の2くらいが		
				③職員の3分の1くらいが		
				④ほとんどいない		
67		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の3分の2くらいが		
				③利用者の3分の1くらいが		
				④ほとんどいない		
68		職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が		
				②家族の3分の2くらいが		
				③家族の3分の1くらいが		
				④ほとんどできていない		